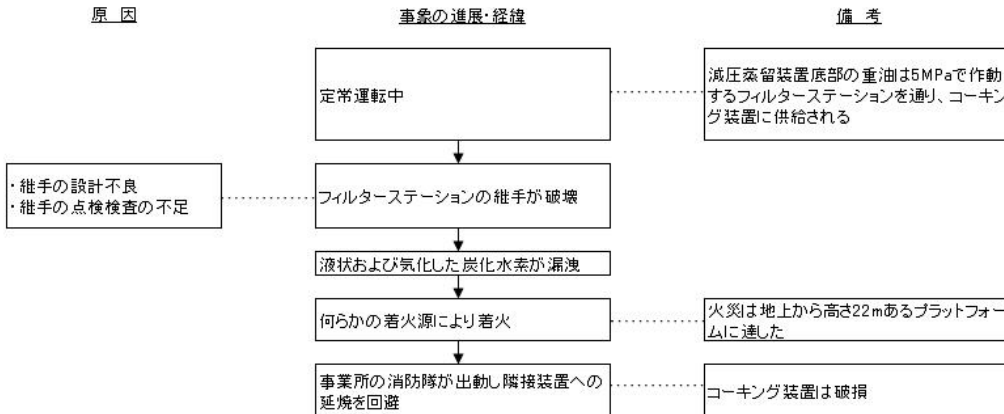




コーキング装置のフィルターステーションから漏洩し火災

事象進展図

00303	コーキング装置のフィルターステーションから漏洩し火災
発災年月日	1987年5月21日
装置	コーキング装置
運転状況	定常運転中
特徴	設計不良の継手からの油漏洩と火災



再発防止策
フィルターステーションに隔離弁の設置
安全専門家コメント
<p>原因となった継手の設計不良は、運転する側からすれば設備への信頼を疑うことにつながる。不完全な装置を運転することはしたくはない。しかし事故事例からわかることは、装置は生まれも保全検査も完璧で、事故は運転する側の要因のみから起きているとも言えない。そこで運転技術者が取り組むことが二つある。</p> <p>(1) 装置の生まれおよび保全検査に関心を寄せ疑問があれば専門家に訊ねる。完璧な装置を運転していると思えるところまで納得を重ねる。</p> <p>(2) 現場を歩き、五感で装置の動きをつかむことを疎かにしないようにする。制御室に表示される数値で運転を把握するのは装置の表の顔を理解できる段階。運転の深みに到達するには五感を使い装置の中の動きを知ることにある。その姿勢があれば、現場の不具合の兆候である漏洩は早期に発見できる。</p> <p>継手の設計不良から継手が破損し、炭化水素が漏えいし、大火災に至っている。思わぬ漏えいは度々あることを常日頃から想定しておかなければならない。災害の拡大防止の決め手は、漏えい個所の確定とその部分の隔離である。当該装置のシャットダウン、脱圧、脱液を急ぎ、バルブ等の操作によって当該部分を隔離したい。日頃からの訓練もさることながら正しいP&IDを常備し、事にあたっては正しいP&IDを使って着実な作業する習慣を身につけておきたい。</p>

引き金事象発生の原因
<ul style="list-style-type: none"> ・継手の破壊

事故の引き金事象
<ul style="list-style-type: none"> 破壊した継手から漏洩

事故に関係した直接・間接要因
<ul style="list-style-type: none"> 《設計要因》 <ul style="list-style-type: none"> ・機器・配管設計不良 《管理・運営要因》 <ul style="list-style-type: none"> ・設備維持・管理基準の不備・不十分 《人的要因》 <ul style="list-style-type: none"> ・作業確認不足・ミス



コーキング装置のフィルターステーションから漏洩し火災

添付資料・参考文献・キーワード

参考資料（文献など）

▶ 添付資料

▶ キーワード(> 同義語)

🔑 火災

🔑 コーキング装置

🔑 ストレーナー

🔑 漏洩 > リーク

🔑 フィルター > フィルタ, 濾過器, ろ材

🔑 フィルターステーション

▶ 関連情報